
東方闇鈍神 ~ welcome Dull Night ~

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方闇鈍神 Welcome Dull Night

【Nコード】

N7315J

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

東方寒冷化以来、次の作品がこれなんです。東方闇鈍神は、文字の中に神が付いていることから、また風神録以来の種族が、神のキヤラが登場します。

prologue 闇を鈍くなる異変(前書き)

闇鈍神異変は、闇幻想郷で起こった。

prologue 闇を鈍くなる異変

ある日、二人の神が、悩んでいた。

それは、夜の騒ぎが五月蠅いことと信仰者がいないことだった。

セルインジー・キリストは、夜を遅らせる手段をとった。

それは、異変につながってしまった。

闇幻想郷に、とどまるところか、逆に幻想郷にもそのことが起こってしまった。

夜が遅れたせいで、困っている魔理沙と霊夢は、ある場所に向かった。

アメリカ サンフランシスコのとある教会に向かい始めた。

其処には、その教会を守る少女がいた。

ケン・スザンロという少女が其処にいた。

はたして、闇幻想郷の謎を解明することが出来るのだろうか。

東方闇鈍神 Welcome Dull Nightが始まる。

stage1へ続く。

prologue 闇を鈍くなる異変(後書き)

ステージ1のボスは、ケン・スザンロです。お楽しみに。

s t a g e 1

闇幻想郷につながる教会（前書き）

今回は、会話文多めです。

Stage 1

闇幻想郷につながる教会

雑魚キャラクターをやり過ごした後、ボスが現れた。

教会の守り主 ケン・スザンロ

「ここは、私が通しません。ここは闇幻想郷につながる場所です
ら。」

「闇を鈍くなった原因を力づくで解明してやるから覚悟しなさい。」

弾幕戦開始

「主派 切り込みの揮」

弾幕が発動した。

避けていくのが楽勝過ぎた。

「十字符 断罪各の角」

弾幕は、強かった。

しかし、簡単に行った。

最後のスペカを発動した。

「十字符　存在奇々怪々」

弾幕は、波のように襲い掛かる弾幕だった。

そして、弾幕戦終演。

「闇幻想郷に行けば、いいわ。」

「闇幻想郷って何？」

「闇幻想郷っていうのは、惨劇を繰り返している幻想郷で、セルインジー・キリストと卒陀がそれを引き継いでいるのよ。」

「引き継いで何年なの？その神々は。」

「70年ぐらいかしら。」

「すごい年数だ。」

「私は、閻幻想郷に行ったけど命からがら逃げ出すことに成功したの。だからね、惨劇が来なくても閻幻想郷の者達に、出会ったら勝負しないとイケないわ。」

「神々の位置を知るために。」

「そういふこと。」

stage2へ

s t a g e 1

闇幻想郷につながる教会（後書き）

次回は、ボスが、ランピーです。お楽しみに

闇幻想郷の謎（前書き）

幻想郷とは違う世界、この世界に霊夢と魔理沙を待つ者とは？

闇幻想郷の謎

「ケン・スザンロの言っていた世界か。」

「闇幻想郷って、闇の空気に包まれている世界と思ったら、綺麗だぜ。」

魔理沙の頭上に、岩が降ってきた。

霊夢と魔理沙は、よけまくった。

「びっくりするぜ。」

「この世界って、妖怪がないのにこんなことが起きるのはどうしてかしら？」

「存夷 岩降りし手に剃れるように」

岩型弾幕が降ってきた。

霊夢と魔理沙は、慌てながら避けていた。

霊夢が見た先に水色のヘラジカがいた。

ランピーという名前である。

「僕の弾幕を避けるなんて君達強いね。」

霊夢と魔理沙は、ランピーと闘い始めた。

「耽路 厄介な空気を届けて」

普通の弾幕だが、動きが早い。

「恋色マスタースパーク」

ランピーは、避けた。

「じいっ、避けるとは。」

霊夢が、弾幕を放つが、ランピーは、余裕に避けている。

「時雨に落ちた命」

ランピーは、一番強い弾幕を放った。

霊夢と魔理沙は、ランピーの弾幕を避けた後、合体スペルを発動した。

「夢想マスタースパーク」

ランピーは、巻き込まれた。

そして、霊夢は、ランピーに言った。

「貴方は、別に怖くないわ。」

魔理沙と霊夢は、その先へと行った。

この先に待ち受ける者は、ギグルスとトゥーシーとカドルスと杵陀とセルインジー・キリストという者がいる。

魔理沙は、自分の魔力が反応していることに気付いていた。

「牟陀は、魔力が反応し過ぎていて困っていた。」

「十字架に勝てる者はいない巫女と魔法使いの罪は、セルインジー・キリストが操ってやる。」

道中テーマ 岩型の不思議弾幕

ポスターマ ヘラジカの念封じ } draw five card

life }

闇幻想郷の謎（後書き）

次回は、闇幻想御花畑です。ギグルスの弾幕は、少しながらも風見幽香に似ています。

闇幻想御花畑（前書き）

ギグルスの弾幕は、かなり手ごわい。そして早苗が、ケン・スザン
口と対決し始める。

闇幻想御花畑

闇幻想郷は、特異な弾幕を放つ妖が多い。

セルインジー・キリストと孕陀は、霊夢と魔理沙を見ていた。

「ギグルスを呼び出す前に、吾が、お手並みを拝見していきますか。」

「セルインジー・キリスト、あくまでも、手加減はしろよ。」

「嗚呼、分かっている。」

セルインジー・キリストは、スペルカードを取り出した。

「罪？　嘲笑いのロザリオ」

十字架型の弾幕が40個現れた。

魔理沙は、霊夢に言った。

「あいつ、十字架の弾幕を用意しているぜ。」

「ちょっと待って、十字架ってもしかして？」

二人は、息が合うように言った。

「キリスト神。」

セルインジー・キリストは、十字架を指で操り始めた。

弾幕が、一気呵成に動いた。

「何よ、十字架に付属弾幕なんか付けるなんて。」

魔理沙は、セルインジー・キリストを追いかけた。

霊夢は、ギグルスと出会った。

「あいつは誰？」

「セルインジー・キリストで、私たちのもう一人の神様です。」

「もう一人の神様？」

「はい、閻幻想郷に部外者はいらぬのよ。」

「どっぴろっぴろっ。」

「霊止 風下に花弁の空気」

花弁の様に弾幕が放たれた。

霊夢は、避けてから、御札で反撃をした。

ギグルスは、次のスペルカードを取り出した。

「花迷 迷路の花弁」

一方、闇幻想郷と人間界の間に位置する教会に東風谷早苗がやってきた。

ケン・スザンロは、やってきた。

「此処を通して。」

「通りたければ、私と勝負しなさい。」

闇幻想御花畑（後書き）

次回は、魔理沙と卒陀。お楽しみに

魔理沙と亾陀（前書き）

亾陀との大激突。

魔理沙と昀陀

昀陀を追いかけている魔理沙。

「仏教魔法 千手の新見」

千手観音の手が弾幕のようにやってきた。

魔理沙は、避けていた。

昀陀は、次のスペルカードを用意していた。

「こんなもの楽勝だぜ。」

「ならば、これはどうかな？」

「卍の鉄則」

卍形の弾幕が、多数襲ってきた。

魔理沙は、避けていたが、昀陀が、卍を蝶に変えて弾幕のごとく襲

ってきた。

「恋色マスタースパーク」

魔理沙の弾幕が、卒陀の弾幕を打ち破って、卒陀に襲い掛かった。

しかし、卍を盾にして、弾幕を打ち破った。

「何っ！」

「君の攻撃はこの程度か。面白い。」

卒陀は、卍を鎖のように張り巡らし始めた。

「仏教魔法 惨劇の卍鎖」

卍の鎖が、急速回転し始めた。

魔理沙の左頬に切り付けられた跡が付いた。

「私の弾幕を甘く見るなあー牟陀。」

牟陀は、小さな卍を弾幕のように放った。

魔理沙は、スペルカードを取り出した。

「恋色ハイパースパーク」

牟陀は、卍の盾を取り出す前に攻撃を受けた。

「くっ、ふざけやがる。」

「牟陀よ。少しぐらい負けを。」

「仏教魔法 静かなる卍の囀る音」

魔理沙は、よけまくった。

牟陀は、次のスペルカードを取り出していた。

霊夢は、カドルスと対決していた。どうやらギグルスとの戦いに勝ったようである。

一方、早苗は、ケン・スザンロとの戦いで苦戦はしていたが、余裕で勝利をしていた。

空陀のテーマ、卍天乱

ギグルスのテーマ、香りのない花

カドルスのテーマ、兎乱脚の殺がれ

魔理沙と凸陀（後書き）

次回は、カドルスの弾幕の強さ。お楽しみに

カドルスの弾幕の強さ（前書き）

カドルスとの戦いは、有り得ない展開になっている。

カドルスの弾幕の強さ

霊夢とカドルスの弾幕戦は、想像絶する戦いになっていた。

「兎符　しがらみに堕ちた鳥達」

大豪雨のように弾幕が降ってきた。

霊夢にとっては、かなり苦戦を強いられていた。

「無理矢理降らすなら死へと誘う」

カドルスの弾幕は、相当強いが、霊夢は、軽々よけまくっていた。

霊夢は、スペルカードを利用した。

「夢想封印」

カドルスに命中、カドルスは目を回して気絶していた。

霊夢は、早苗と出会った。

一方、魔理沙は卒陀に首元をつかまれていた。

魔理沙の身体の所々に、血がにじみ出ていた。

カドルスの弾幕の強さ（後書き）

次回、魔理沙を救え！お楽しみに

魔理沙を救え！（前書き）

傷だらけの魔理沙を救うべく霊夢と早苗はある作戦を立てる。

魔理沙を救え！

卒陀は、もがいている魔理沙の首元をつかんでいた。

「君、此处で死んでも大丈夫だよ。すぐに蘇れるから。」

魔理沙は、魔法で卒陀を跳ね飛ばした。

卒陀は、魔理沙の魔力を少し甘く見ていた事を気が付いた。

「どうやら吾は、君の力を甘く見ていたようだ。」

魔理沙は、スペルカードの準備をしていたが、卒陀が一足早くスペルカードを出してしまった。

「仏教魔法 不動明王の強き拳」

拳のような弾幕が魔理沙の腹を強く殴った。

魔理沙は、吐血をした。

牟陀は、もう次のスペルカードを用意していた。

霊夢と早苗は、お札で牟陀のスペルカードを破った。

「仲間がいたのか、しかし君達は、偽物のスペルカードを破った。本物は、こっちだ。」

霊夢と早苗と魔理沙は、逃げる準備をしていた。

「仏教魔法 海神吉陣」

魔理沙を救え！（後書き）

次回は、卒陀のもう一人の神友達。お楽しみに

牟陀のもう一人の神友達（前書き）

牟陀には、セルインジー・キリスト意外に神友達^がいた。

牟陀のもう一人の神友達

「仏教魔法 海神奇陣」

波しぶきのような弾幕を放った牟陀。

魔理沙と霊夢と早苗は、素早く逃げた。

牟陀には、セルインジー・キリスト意外にも神友達がいる。

それは、海の神だった。

牟陀は、最後のスペルカードを取り出した。

「これで終わらせてやる。」

霊夢は、厄介な心配事をしていた。

相手の行動を読まない限り、弾幕を避けることはできない。

それは、つまり牟陀の最後の弾幕が危険性が強いと霊夢は、感知した。

牟陀は、にやり顔で言った。

「この弾幕で、全てを決めてやろう。仏教魔法 浄土せず消えた魂」

とんでもない、弾幕である。卍が飛び交い始めていた。

魔理沙は、先ほどの攻撃で腹を痛めている。

霊夢と早苗が、牟陀との最終決戦を迎えた。

卒陀のもう一人の神友達（後書き）

次回、卒陀の次。お楽しみに

牟陀の次（前書き）

戦いは、勝利となった。そして最後は。

牟陀の次

この弾幕を乗り越えるのに必死になっている霊夢と早苗は、牟陀に近づける体制になっていた。

「このまま、やるわ。」

集中攻撃を開始そして、牟陀は、敗れた。

セルインジー・キリストが立ち上がった。

霊夢と早苗は、次の相手のことを心配していた。

エクストラステージである。

セルインジー・キリストは、牟陀より少し弱いですが、油断が出来ない相手になる。

激痛から脱出した魔理沙は、早苗と霊夢とともにセルインジー・キリストがいる場所に向かった。

「1111で終わらせるか。」

卒陀の次（後書き）

次回は、セルインジー・キリストの十字架の強さ。お楽しみに

セルインジー・キリストの十字架の強さ(前書き)

あまりにも強いセルインジー・キリスト。

セルインジー・キリストの十字架の強さ

セルインジー・キリストは、闇模様の十字架を取り出した。

「罪？ 嘲笑いの十字架ロザリオ」

十字架から放たれる闇色の弾幕。

セルインジー・キリストは、闇模様の十字架を次々と召喚していった。

「セルインジー・キリストって、こんなにも強いのかよ。」

「それだけじゃないわ。闇を鈍くさせた真犯人が神だって言うことにやっと気付いたわ。」

「ますます、厄介な相手だわ。」

早苗には、二人の神が安全を保証すると約束してくれたのだが、相手も神である為か、頭を使わない限り解決しない問題となった。

セルインジー・キリストの弾幕を潜り抜けた。三人は、セルインジー・キリストに攻撃を開始した。

「ふっ、愚かな少女達よ。吾にその程度の攻撃が通用すると思うのかな？」

背中にある十字架を盾にして、攻撃を塞いだ。

「操罪 消えた罪と操られる罪」

十字架が弾幕のように襲った。

セルインジー・キリストは、にやりとした顔をしていた。

セルインジー・キリストの十字架の強さ(後書き)

次回は、罪葬 贖いの果て。お楽しみに

罪葬 贖いの果て（前書き）

セルインジー・キリストの弾幕の恐ろしさが霊夢に襲い掛かる。

罪葬 贖いの果て

セルインジー・キリストは、にやりとしていた。

弾幕を避けている霊夢達は、苦戦を強いていた。

「闇鈍神の真犯人。覚悟しろ！」

しかし、セルインジー・キリストは、笑っていた。

「何がおかしい！」

魔理沙の声で、はっと気がついたセルインジー・キリストはスペルカードを取り出した。

「これで最後のスペルカードだ。」

「させるもんですか。」

「やめろ、霊夢。」

「罪葬　贖いの果て」

早苗と魔理沙は、衝撃を受けた。

霊夢の腹に十字架が刺さっていた。

弾幕の恐怖は、それだけでなく、上空から一気に降り注いだ。

「くっ、強い。」

霊夢は、後から降り注ぐ弾幕でさらに背中に傷が付いた。

罪葬 贖いの果て（後書き）

次回は、セルインジー・キリストとの最後の戦い。お楽しみに

セルインジー・キリストとの最後の戦い（前書き）

最終回近づく。霊夢達の運命は？

セルインジー・キリストとの最後の戦い

セルインジー・キリストは、けた外れに強かった。

霊夢は、腹を押さえていた。

十字架の怖さだけでなく、セルインジー・キリストは、閻幻想郷の賢者である為、その力が比べ物にならなかった。

「恋色マスタースパーク」

セルインジー・キリストは、十字架で違う場所に跳ね返した。

「下らんことはよせ。」

セルインジー・キリストは、前に使ったスペルカードを出した。

「罪？ 嘲笑いの十字架」

この弾幕で、苦戦を強いられていく間、早苗はあるスペルカードを持っていた。

そのスペルカードとは一体何なのか？

セルインジー・キリストとの最後の戦い（後書き）

次回、最終回 闇鈍神異変終結。お楽しみに

最終回 闇鈍神異変終結（前書き）

戦いが終了。いやー長かった。

最終回 闇鈍神異変終結

戦いが、少しヒートアップしていた。

「セルインジー・キリストという神は、相当強い。しかし、罪を操る力は、現人神に通用しますか？」

「面白い、現人神の風と吾の風をぶつけてみる。」

「罪突風 クライム・ザ・マイクロバースト」

「風神 優しい暴風」

風神と罪操神のぶつかりが、風神を勝利に導いた。

「そんな馬鹿な！」

セルインジー・キリストは、満身創痍となった。

「負けだよ。闇を今すぐ戻すことにして人々を安心させる、」

どうやら、夜は、戻って楽しい気持ちになった。

霊夢と魔理沙は、けがの手当てをし終えた。

牟陀とセルインジー・キリストは、少しあることを確認していた。

それが、地球危の始まりとなってしまう。

ケン・スザンロと牟陀とセルインジー・キリストは、台風X号オールスターズのキャラクターである。

東方闇鈍神 Welcome Dull Night 完結

次回作品、東方地球危、東方桜紡葬、東方元素殿、東方光曝散、東方凜死碎となる。

最終回 闇鈍神異変終結（後書き）

面白かったでしょうか？只今連載中の桜紡葬に期待してくださればよろしいと思います。次回作を此処で発表してしまいました。が、実は、さらなる新作、東方暗想天がこの小説の構造が完成した後に次の作品の構造の骨組みを立てていました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7315j/>

東方闇鈍神 ~ welcome Dull Night ~

2010年10月11日22時32分発行